

國學院大學学術情報リポジトリ

デジタル・ミュージアム研究会

メタデータ	言語: Japanese
	出版者:
	公開日: 2024-07-01
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者:
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002000518

デジタル・ミュージアム研究会

「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」プロジェクトでは、デジタル人文学（Digital Humanities、以下DH）について知見を深めるため、この分野の第一人者である永崎研宣先生（財団法人人文情報学研究所主席研究員、日本DH学会理事）をお呼びして、研究会を行った。日本文化研究所のスタッフに加えて、國學院大學デジタル・ミュージアムを運営しているデジタル・ミュージアム・ワーキンググループの構成員にも参加を呼びかけ、20名程の参加者を得た。

永崎氏はまず、DHについて、今までの人文学と、デジタルを活用する情報・技術との間で行われているということを意識する必要があるとし、何のために、また誰に対して、デジタル化された研究成果を提示するのかを自覚的に設定する必要があるとした。

その上で近年の研究状況について、DHに関する学会の国際的な連合体である国際デジタル・ヒューマニティーズ連合（ADHO: Alliance of Digital Humanities Organizations）が2005年に成立し、日本でも2012年に日本デジタル・ヒューマニティーズ学会が成立して翌年ADHOに加盟したことを述べた。また、DHのトップジャーナルである *Digital Scholarship in the Humanities* の評価も確立し、インパクト・ファクターを持つようになっていたとした。

次に、実際にDHの成果を発信していく際に、最初に方向性を設計しておくことの重要性が述べられた。想定される利用者によって、提供される情報の密度と範囲を適切に設定す

るべきであり、それは予算規模とも関わって取捨選択を伴うものであるとした。また、利用者にとって使いやすい形で提供していくことが重要だが、開発者の想定する使いやすさが、利用者の使いやすさに結びつかない可能性があることも指摘された。

この使いやすさという観点からも、データベースを設計・構築する段階で、国際標準的な規格に対応しておくことの重要性が述べられ、Unicode（文字コード）、TEIガイドライン（Text Encoding Initiative Guidelines、人文学資料の構造化の標準を示すガイドライン）、IIIF（トリプルアイエフ、International Image Interoperability Framework、画像を中心としたwebコンテンツの効率的な共有をめざす国際的なデジタルアーカイブの規格）などが紹介された。また、もし何らかの理由で取り扱うデータがそうした規格にあてはまらないように思われる場合には、規格を定める母体と交渉して、規格自体をより包括的なものに改良していくことの必要性も述べられた。

他方、利用されるという局面について、認知されなくては利用もされないことが指摘され、関連する研究者を対象に繰り返し告知することの重要性、また利用法の講習会も有益であることが述べられた。

また、國學院大學デジタル・ミュージアムの構築・運営について、実務担当者から報告や質問があり、永崎氏から忌憚ない意見を頂戴した。今後のデジタル・ミュージアムの展開に反映させていきたい。

（星野靖二）